

ガラス撃退緑色レーザー

明電工 農家の被害軽減へ

ガラスによる農家や企業などの被害軽減へ向け、坂東市沓掛の電気設備工事会社「明電工」(大川進社長)

は、ガラスを寄せ付けなくする装置「ガラス撃退レーザー」の販売を開始した。ガラスが嫌がる緑色のレーザービームを発し、畑の作

物や畜舎などから遠ざける。被害に悩む事業者らの利用を見込む。

装置は学習能力にたけるガラスに対応するため、直線や四角、リボンなど10種類の様子のレーザーを不規則に照射する。約30〜35分先までレーザーが届き、5

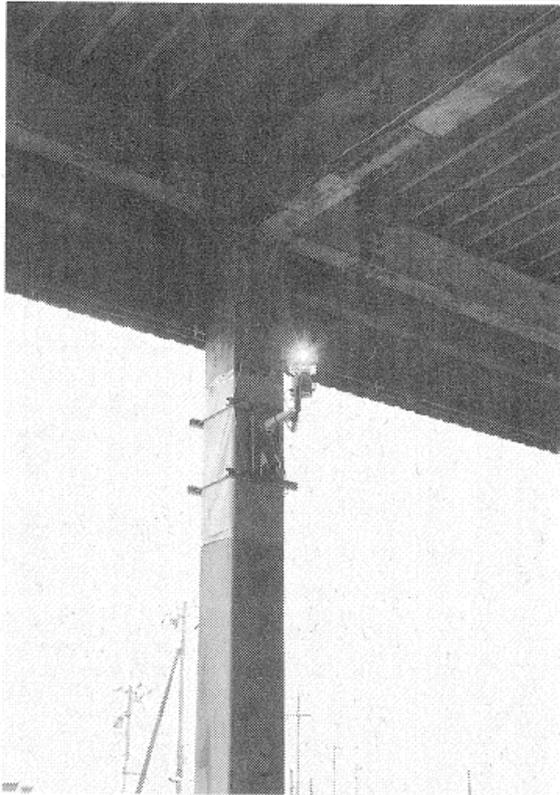
分置きに照射を繰り返す。首振り機能があるため広範囲をカバーできる。

同社によると、ガラス被害は、農家では農作物を荒らされたり、牛や豚などを傷つけられたりする。運送会社などでは配送商品を含め幅広い被害が確認されているという。従来の撃退商品で駄目だったという畜産業者からは、装置を使って1年3カ月間効果が続いているとの声があるという。大川社長は「防鳥ネットも外せたと喜んでいる」と効果を説明する。

装置は、山陰パナソニック(島根県出雲市)が開発。県内での事業提携は同社のみ。設置費用は本体1台と基本工事込みで35万円。大川社長は「ガラス被害に悩んでいるのであれば相談してほしい」と話している。

問い合わせは同社☎0297(44)21233。

(黒羽根勝弘)



緑色のレーザー光を照射し、ガラスを寄せ付けなくする「ガラス撃退レーザー」(境町内)